

## 優秀賞 受賞経営

### 1 経営状況

#### (1) 経営体名、住所、経営形態

近藤畜産（代表 近藤武雄）、新潟市北区、養豚一貫経営

代表の武雄氏（67歳）が中心となり、妻、長男及び次男が養豚業、三男が精肉・販売加工に従事しており、次女が自家産の豚肉を材料とした料理を提供するカフェレストランのオーナーシェフを担っている。

#### (2) 経営の経過

年 月	事 項	飼養頭数	備考（施設整備等）
昭和30年5月	父が豚の飼育を開始	20頭	
昭和39年	本人が就農		手造りの肥育豚舎新設
昭和39年6月	新潟地震で豚舎が被害を受ける		被害を受けた豚舎修繕
昭和46年	養豚一貫経営を開始	200頭	
昭和53年	他2戸の養豚農家と共に現在の農場に移転	500頭	肥育舎新設、堆肥舎新設
昭和54年	旧農場から移転場所に豚の移動完了	600頭	分娩舎新設
平成7年	離乳施設（ピギーパーラー）新設		
平成7年	次男が愛知県内の大手種豚繁殖農場で1年間研修		
平成8年	次男が就農	1,300頭	肥育豚舎増設
平成8年	長男が愛知県内の大手種豚繁殖農場で2年間研修		
平成10年	長男が就農		
平成10年	縦型コンボ新設		
平成14年	浄化槽新設		
平成16年	パン残さを加工した飼料給与を開始		飼料乾燥機導入

年 月	事 項	飼養頭数	備考（施設整備等）
平成24年	豚肉ブランド「甘豚」を商標登録し、三男が精肉・加工販売を開始	1,500頭	
平成25年10月	生産性向上のため、家畜保健衛生所によるP2点背脂肪厚測定を開始		
平成26年10月	離乳子豚の成績向上のための施設整備		簡易離乳子豚施設（とんとんハウス）
平成26年12月	畜産安心ブランド生産農場（クリーンポーク生産農場）に認定	1,600頭	
平成27年7月	コスト低減のための飼料用米の給与開始		飼料粉碎機、飼料混合機
平成27年9月	次女が甘豚を提供するガーデンカフェをオープン		

(3) 労働力の状況（養豚部門）

総労働力				
	家族	常時雇用	パート	研修生
5人	4人	1人	一人	一人

(4) 規模、生産量（直近1年間の実績）

母豚 150 頭、年間肉豚出荷頭数 1,584 頭、年間子豚出荷頭数 1,716 頭

(5) 自給粗飼料栽培面積（直近1年間の実績）

該当なし

（新潟市農業協同組合から飼料用米を入手）

(6) 経営の特徴

<p>養豚業から精肉の加工・販売、カフェレストラン経営に至るまで、家族が団結して6次産業化に取り組んでいる。</p> <p>養豚業は、本人と妻が従事していたが、次男が中学卒業後に養豚業の見習いを経てから愛知県内の大手種豚繁殖農場で1年間研修した後、本格的に就農し、次いで長男が新潟県農業大学校を卒業後、次男と同様に愛知県内の大手種豚繁殖農場で2年間の研修を経て就農している。</p> <p>精肉加工は、三男が担当し、豚肉ブランド『甘豚』として商標登録した豚肉の精肉加工のほか、ハム、ソーセージ、ベーコンなども加工している。</p> <p>加工した商品をレストランや居酒屋に卸しているほか、一部、東京都や大阪府等</p>
---

の飲食店にも卸している。また、次女が平成 27 年に実家の敷地にオープンしたカフェレストラン「ガーデンカフェかものはし」では、ランチでパスタなどとともに、『甘豚』を使った料理を日替わりで提供しており、客から「脂肪に甘みがある」など定評があり、地元だけでなく市外からもリピーターが訪れる店へと成長しつつある。

新潟県中央家畜保健衛生所の指導により、母豚のボディコンディションの適正化に努め、生産性向上へ取り組んでいる。

平成 25 年に実施した指導前の家畜保健衛生所の聞き取りでは、①出荷頭数が少ない、②産子数が少なく圧死と下痢による事故が多いため離乳頭数が少ない、③空胎日数が長い、④母豚の廃用サイクルが短い、⑤後継豚作出のため純粋豚が多く成績低迷の一因となっている、などの問題点が多数挙げられ、現地調査の際には経産豚が全体的に削瘦気味で、逆に未經産豚・育成豚は過肥気味が目立ったことから、P2 点背脂肪厚測定を実施することとなった。

平成 25 年 10 月に実施した測定では、背脂肪厚が適正範囲の母豚は 28%と少なく、バラツキも多かったことから、毎月定期的に測定を実施し、適正給与量把握と改善効果の確認に努めた。さらに成績不良の母豚は順次廃用して強健性と繁殖能力が高い自家育成の F1 の増頭、強い発情回帰のための砂糖給与、哺乳子豚への代用乳の給与など改善対策を開始して、1 年後には背脂肪厚が適正な母豚は 60%と大きく改善したうえばラツキも解消し、不受胎豚の減少など効果を確認している。

※ P2 点背脂肪厚測定とは、従来、豚の外観や腰骨の触知で判断されたボディコンディションスコア（BCS）を測定機により具体的数値で判断する方法

B C S	1.0	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	5.0
	著しく 痩せすぎ	痩せすぎ	細め	正常	やや太め	太め	太り過ぎ
P2 点 背脂肪厚 (mm)	10~12	12~14	15~16	17~18	18~20	21~24	25 以上

適正範囲

飼料費の低減対策として、肥育豚にパン残さを加工した飼料と飼料用米を給与している。

平成 16 年から新潟市内のパン工場からパン残さを仕入れてエコフィードとして肥育豚に給与していることに加え、平成 27 年からは飼料粉碎機、飼料混合機を導入して飼料用米の給与を開始し、生産コストの低減に努めている。

(7) 取組の先進性など

養豚業を中心として、精肉の加工・販売、甘豚料理を提供するカフェレストラン経営に至るまで、家族経営で6次産業化に取り組んでいる。

(8) 耕畜連携の状況、地域への貢献

- 豚ふんは縦型コンポで堆肥化处理した後、地域の耕種農家（スイカ、ネギ、タマネギ、キャベツ等）に無償で供給し、地域循環型農業の推進に貢献している。
- また、次女が経営するカフェレストラン「ガーデンカフェかものはし」の庭は、堆肥をまぜて耕すなど土作りから手掛け、植物の育ちやすい環境を整えている。
- 地域に飲食店が少ないので、「ガーデンカフェかものはし」は地域の人憩いの場として利用されている。店では「親子で楽しむハーブの会」や食事をしながらの「オリジナルアクセサリーづくり」などイベントを開催しているほか、地域の食育イベントへの出店など積極的に甘豚をPRしている。
- サッカー・アルビレックス新潟ホームゲーム会場のデンカビッグスワンスタジアムでは、ホームゲーム開催時に知人が出店する「越後甘豚本舗」に甘豚を卸しており、甘豚生姜焼き丼、甘豚チャーシュー丼など、地元の豚肉を地元のサポーターに広くPRしている。
- 地域の小学校、中学校のイベント等で甘豚が利用されているほか、「ガーデンカフェかものはし」では中学生の職業体験も受け入れている。

(9) 今後の目指す方向性と課題

- 育成豚が群飼のため、全体的に過肥の傾向が続いていることから、制限給餌を徹底して、初回種付け時には背脂肪厚が適正な豚に仕上げる必要がある。
- パン残さ、飼料用米の配合割合を増加した場合の肉豚増体への影響など、更なる検討を重ね、一層の収益性向上を図る必要がある。
- 豚舎が老朽化しているので、作業効率向上のための豚舎改造、省力化として繁殖豚舎の自動給餌ライン化などを構想しており、順次、改築・新築する予定であることに加え、農場周辺に木、草花を植栽して環境保全の向上を図る必要もある。
- まだ時期は決めていないが、将来的には法人化して、対外信用力の向上や農業従事者の福利厚生面の充実を図りたい。

## 2 生産技術の概要

区 分	単位	P2 点測定前 (平成 25 年)	直近 1 年間 (平成 28 年 9 月)
母豚平均飼養頭数	頭	150	150
母豚 1 頭当たり分娩頭数	頭	11.5	12.0
母豚 1 頭当たり離乳頭数	頭	9.4	10.3
年間換算離乳子豚頭数	頭	22.1	24.7
離乳時育成率	%	82.0	92.8
年間肉豚出荷頭数	頭	972 (肉豚) 1,440 (子豚)	1,584 (肉豚) 1,716 (子豚)